

バッタ広場にきた蝶と蛾

2005年9月

ギンツバメガ

羽を開くと3cm ぐらいのやや小型の蛾、白地に薄茶色の筋が入った特徴のはっきりした蛾である。似た種類はいないので一度覚えれば同定は楽である。東京区部では珍しいようで、皇居や白金の自然教育園では記録されていない(区部の記録がひとつあるが原文献を見ていないので記録地はわからない)。

板橋区で最初に見つかったのは赤塚のバッタ広場、一昨年坂本さんが今回掲載したピンボケの写真を撮った時である。去年は確認できなかったが、今年の7月にようやく2匹採集することが出来た。その後数匹見ているので、ここで発生していることは間違いないであろう。

食草はガガイモと他数種のガガイモ科植物が記録されている。バッタ広場では未だ幼虫を見つけていないが、ガガイモを食べていることはほぼ確実である。付近にはガガイモが所々見られるが、多いのは荒川河川敷の笹目橋付近である。



バッタ広場のガガイモは多分近くから飛んできた種から増えたものであるうが、蛾は荒川河川敷から飛来したと

というのが私の推測である。上流の秋ヶ瀬公園ではギンツバメガは確実に生息し、笹目橋では未確認だがガガイモは多く安定した植生になっているからである。

ガガイモは大きくなると直ぐ刈られてしまう事が多く、この蛾も一時的には発生出来ても安定した生息は難しいのではなからうか。ガガイモをうまく管理し、バッタ広場を本種の永続的な生息地としたいものである。

ヒメウラナミジャノメチョウ

ヒメウラナミジャノメは1960年頃までは栄町の自宅でも普通にいた蝶である。板橋区では空き地や手入れの悪い庭ならどこにでもいた蝶だったのである。現在板橋区内での確実な生息地は、私の知る限りでは和光市の芝宮橋下流の新河岸川両岸のみだが、成増4丁目でも最近まで見られたという話も聞いている。都心部の皇居では今でも普通に見られ、千鳥ヶ淵公園付近のお濠でも見られる。

去年バッタ広場で1匹採集、今年も1匹目撃している。本種はいる所なら大抵群生し生息

確認もしやすい蝶である。この2例はよそから迷い込んできたものである可能性が高い。飛び方は弱々しいが、どうも移動性は強い蝶のようだ。生息環境はやや背が高いイネ科の草が生えた草原で、木立がポツポツと生えている事が欠かせない。木立は人為的なものでも構わないが、根元までイネ科の草が生えているような所が好みで、東京付近の平野部に限ればでは草原性ではなく林縁部の蝶である。

ある生息地の動物の個体数はそこで生まれた数によそから移動してきた数を足したものであり、そこで死亡した数とよそに移動してしまった数の合計を差し引いた数が増加数である。移出率は種によりほぼ一定で、生息地の面積とは関係がうすいのである。ところが移入率は生息地の面積が小さくなり分断孤立化が進めば急激に減少し、確率はほぼゼロになる。的が小さくなる程ねらいを定めない矢が当たる確率は低くなるはずである。飛翔力が弱く偶然まかせて生息適地にたどりつく動物は移動性が強いほど絶滅確率が高くなる。市街地での本種の減少の一因はこれではないかというのが私の思いつきである。ただし本種の移動性について私は何のデータも持っていない。仮説と思いつきの差は実証的データが有るか無いかによるのである。

本種の食草はチヂミザサ、ススキ、チガヤなど各種イネ科草本、赤塚バツタ広場は生息の条件は満たしていると思える。広さはどうであろうか。ヒメウラナミジャノメが再び赤塚の地に住み着くことを期待したい。(釣巻岳人)